慣れが原因？ 進まない避難

風水害 ハザードマップ確認を

豪雨が続いた夏に続き、台風や秋雨の季節を迎える。ところが災害が起こるたびに鳴る避難情報のアラート音に耳慣れたとの声もあり、避難を行動に移そうと考える人は増えないままだ。きょうは防災の日。「まさか」が「またか」にならないよう、普段から避難行動を想定しておきたい。（津川綾子）

たぶん私は大丈夫―。過去に発生した災害をデータで振り返ってみると、そう思い込んでいる人が少なくなさそうなことがうかがえる。

令和2年7月豪雨で避難情報が出た岐阜県内の3市1町の住民（有効回答1058人）を対象に、同県などが昨年行ったアンケートでは、約74％が「避難しなかった」と回答。理由を聞くと、「過去の経験から大丈夫と思った」が最多で半数を占めた。

今年8月の豪雨で死者・重傷者が6人となった長崎県の例でみると、多数の地域に警戒レベル3～5の避難情報が出ていた14日午前6時時点で、避難所への避難者は、対象の約125万人中、739人だった。ほかにも親類・知人宅などに避難した人や、自宅内で安全確保を図った人もいたと思われるものの、早朝ではない同日正午時点でも避難所への避難者は679人だった。

自宅周囲の色は？

このように風水害時の人々の避難への足取りは鈍い傾向がうかがえる。一方で、事前行動で命を救いやすいのも風水害、との指摘もある。

「発生の予知が難しい地震とは違い、風水害は気象情報で事前に予測して避難ができます」と話すのは、防災に詳しい旭化成ホームズくらしノベーション研究所の顧問、松本吉彦さん。事前に早めの行動を取るために、「まず避けるべき難を知ろう」と呼びかける。

難を知る第一歩は、「ハザードマップ」の確認から。浸水や土砂災害などの被害想定を色分けして示した地図で、市区町村のホームページなどで見ることができる。種類も災害別に洪水・浸水、土砂災害、高潮、津波、地震の被害想定などがある。過去の被災地を見ると、ハザードマップで被害が想定されていた地域も多い。

まずは9月に比較的起こりやすい洪水・浸水予想のハザードマップで、自宅の周囲が色塗りされているかを見てみよう。

色がついていない場合は、状況によるものの、基本的には在宅での避難を中心に準備を進める。

色がついている場合は、①想定される浸水の深さが床下（～50センチ未満）なら、在宅避難を中心に準備②50センチ以上なら、早めに自宅を立ち退く想定で準備を進める―と考えるとよい。ただし、「ハザードマップの予想は過去の浸水被害をもとに作成されたもの。予想を超えてくることも念頭に置きましょう」と松本さんは促す。

明るいうちに早く

避難する際の注意点は主に2つ。早めのタイミングで、明るいうちに移動することだ。その目安となるのが、市区町村が出す避難情報（警戒レベル）だ＝左ページの図。

自治体から最初の段階で出るのは警戒レベル3の「高齢者等避難」だが、事態が急変し、災害が切迫した場合はいきなりレベル4の「避難指示」や5の「緊急安全確保」が出る場合もある。

また雨が激しく降り出してからでは避難がおっくうになってしまう。加えて、「高齢者の歩行速度は他の年代に比べて半分くらいとされており、いっそう早めの避難が求められる」（松本さん）。

できれば天候が大きく崩れる前に、あらかじめ決めた親戚・知人宅やホテルなどの避難先に移動することを普段から想定しておくと、躊躇（ちゅうちょ）なく行動がとれるという。

避けるべき難を調べよう

ハザードマップを確認
→自宅の**被害想定**を知る

手順

1 市区町村のホームページを開く
↓
2 検索窓に［ハザードマップ］と入れ［Q］を押す
↓
3 住まいの地域の想定（色）を確認

→**白（色塗りなし）**…主に**在宅避難**を想定

❶家に用意
・食料と水
・エネルギー（電源・ガスなど）
・簡易トイレ

❷家具の固定（地震）

→**色塗りあり**…**立ち退き避難**＋❶❷の対策

避難の
- **場所**……・ホテル、親族宅は？ ・自治体の避難所
- **タイミング**…例）リスクの高い夜は避けるなどを確認
- **ルート**

こんな災害、特に注意

✓自宅が傾斜地…土砂災害
✓自宅が低地…浸水、津波
✓それ以外も…地震、内水氾濫（下水のあふれ）

※旭化成ホームズくらしノベーション研究所の松本吉彦さんの話を基に作成

暮らし

大森由紀子の スイーツの世界

天才職人の菓子改革

おおもり・ゆきこ　フランス菓子・料理研究家。「スイーツ甲子園」（主催・産経新聞社、特別協賛・貝印）アドバイザー。

フランス革命後に、それまで宮廷お抱えだったパティシエが町に出てお店を開いたことで、今まで知られていなかったお菓子が世の中に出回っていきました。その潮流に続いて現れたある天才菓子職人が、フランス菓子をさらなる高みに導いていきました。アントナン・カレーム。くしくも革命の直前、1784年に生まれ、貧しさゆえ10歳で親に捨てられてしまいますが、食堂で下働きをした後、運良くバイィという一流菓子店で働くようになってから頭角を現していきます。

カレームは建築に興味を持ち、仕事をしながら図書館に通って建築学を勉強したといわれています。当時この店に出入りしていたタレーランという政治家がカレームの才能を見いだし、数々の重要な晩餐（ばんさん）会にパティシエとして起用。その流れでロシア皇帝、イギリス皇太子、ロスチャイルド家などのお抱えパティシエにまで上り詰めました。彼はお菓子も外交手段の一つとし、来賓をいかに創作菓子で喜ばせるかに心を砕いたのです。

カレームがもたらした菓子改革は数知れず、例えば、それまでスプーンですくって焼いていた生地を絞り袋で絞るなど、新たな菓子作りを行い、シャルロット＝写真（パティシエ・シマ提供）＝やクロカンブッシュといったお菓子を生み出します。後者はシューを高く積み上げるもので、フランス人が今でもウエディングケーキとして注文します。

＝次回は22日掲載予定

知ってる？

コロナ禍で高まる関心

光触媒除菌①

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、衛生対策への関心が高まっている。そんななか、「手間がかからず効果を見込める」として注目されているのが「光触媒」を活用した除菌・消臭製品だ。

光触媒とは、光（一般的には紫外線）をあてると、化学反応を促進する物質で、「二酸化チタン」などが知られている。反応によって発生した活性酸素が空気中の菌やカビなどに作用して、その分子構造を破壊、水や二酸化炭素に分解して無害化するという。

この仕組みを活用した空気消臭除菌装置＝写真＝を販売しているフジコー（北九州市）は、さらに接着溶剤を使わずに光触媒を基板にコーティングする独自技術を確立、「触媒を溶剤に埋もれることなく均一に並べて光があたる面積を大きくすることに成功した」という。

また、「他の金属を混ぜることで、太陽光などの紫外線だけでなく、LEDや蛍光灯でも反応できるようにした」とも。

こうした性能が評価され、コロナ禍で衛生対策がとりわけ重視される医療・介護施設からの問い合わせは「コロナ前は1カ月に約10件ほどだったが、コロナ後は約100件を超えている」という。さらには学校やオフィス、一般住宅などでも需要が拡大、令和2年度の除菌装置事業の売上高は前年度比で約8倍に。生産台数もOEM（相手先ブランドによる生産）を含め元年度の約8千台から　約13万台になったという。

（取材協力　フジコー）

主食

ぱらりと仕上げて

ドライカレー

で炒める。タマネギがしんなりとしたら③④を加え、軽く焼き色がつくまで